

氏名： 水野 勲 (MIZUNO Isao)  
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系  
学位： 博士 (理学)、東京都立大学、1998 年  
職名： 准教授  
専門分野： 数理地理学、経済地理学  
URL： <http://info.pr.ocha.ac.jp/staff/detail.asp?staff=78927827>  
E-mail： [mizuno.isao@cc.ocha.ac.jp](mailto:mizuno.isao@cc.ocha.ac.jp)

#### ◆研究キーワード / Keywords

集積/地理的モデリング/パネル調査/職住関係/韓国  
agglomeration / geographical modelling / panel survey / work-home relationships / South Korea

#### ◆主要業績

総数 (6) 件

- ・水野 勲(2008)「職場と住居の空間的關係と家族」, 篠塚英子・永瀬伸子編著『東アジアの少子化とエコノミー: パネルデータ分析』, 作品社, pp. 134-151.
- ・水野 勲 (2007)「朝鮮半島の都市の存立基盤」, 金田章裕・山田誠ほか編著『アジア歴史アトラス: 都市と農地景観』, 朝倉書店, pp. 176-183.
- ・水野 勲 (2007)「住まいの変化」, 『家族・仕事・家計に関する国際比較研究 韓国パネル調査 第4年度報告書』 F-GENS Publication Series 32, pp. 20-29.
- ・水野 勲 (2007)「住まいの変化」, 『家族・仕事・家計に関する国際比較研究 中国パネル調査 第3年度報告書』 F-GENS Publication Series 34, pp. 23-33.
- ・水野 勲 (2007)「転居と通勤」, 『家族・仕事・家計に関する国際比較研究 韓国パネル調査 第3年度報告書』 F-GENS Publication Series 20, pp. 25-35.

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

- ① COE ジェンダー研究のフロンティアによる韓国パネル4年度、同5年度、中国パネル3年度、同4年度の調査データを用いて、ソウルおよび北京の職住関係の変化、特に居住、通勤、引越しについて、性別、年齢、配偶関係、就業形態などに注目して分析し、4冊の報告書に分析結果を報告した。
  - ② COE ジェンダー研究のフロンティアの5年間の成果を、人文地理学会大会で発表し、その後、5巻本の書籍の一章として出版した。
  - ③ アジアの歴史地理学を地図で表現した3巻本の書籍の一章として、韓国の農村市場について論文を出版した。
  - ④ 特別教育研究経費「コミュニケーション・システムの開発によるリスク社会への対応」で、災害、事故、犯罪などの都市リスクに対する地理学的な研究を推進した。
- I studied home-work relationships like residential situation, commuting patterns, and intra-urban migration in Seoul and Beijing metropolitan areas, focusing on gender, age, marital status, family type, and employment pattern by using F-GENS Panel Survey data by COE Frontiers of Gender Studies in Korea and China. The results were printed in four of F-GENS Publication Series.
  - I made a presentation of five years' results concerning F-GENS Panel Survey in the Association of Japanese Human Geographers, and those were published as one chapter in the F-GENS 5 volume books.
  - I presented the paper on Korean rural markets in Asian historical geography atlas.
  - I have proceeded in the geographical studies about urban risk on natural disaster, traffic accidents, crime, and so on, as a cooperative research program.

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

学部では、地理学の必修科目である人文地理学、地理学フィールドワークA（輪島）、同B（神田川、江東区）の他、コア科目の基礎ゼミIで演習を行った。また社会調査士の免許科目である、社会情報処理演習、さらに地理学の専門科目である地域分析学演習、地理学英書講読、卒論の指導を行った。5名の卒論生の指導を行った。

大学院では、博士前期課程の地域経済論で、グローバル都市地域について講義した。修士課程2名、博士課程1名の研究指導を行った。

At undergraduate level, I delivered one lecture (Human Geography), two field trips (Wajima in five days, Kanda River and Koto Delta in each day), and four seminars (Basic Seminar, Social Information Processing, Human Geography Readers, and Regional Analysis). I made a guidance for five theses of undergraduate students.

At graduate level, I had one seminar for global-city regions. I advised two graduate students' theses and one doctoral candidate.

## ◆研究計画

1. リスクの地域分析と社会調査の接点に関する考察
2. 都市空間の職住分離の地域統計分析
3. 経路依存性を考慮した地域発展モデリング

## ◆メッセージ

ローカルな舞台で起こるさまざまな現象を関連づけて理解し、さらにそれらの関連をより広い文脈の中に位置づけること、そして既存の人文・社会科学の理論を地図や地域統計の分析によって、多様性を内部に含んだ理論へと拡張すること、これらが地理学の課題としてあります。理論的な思考と、ユニークな現象への愛着を同時にもつために、私の授業が役立てばいいと思っています。